

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200491		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名(ユニット名)	グループホーム友愛		
所在地	和歌山県紀の川市畑野上272		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である、誰もが利用したいと思えるグループホームを目指し、一人ひとりの生活リズムを大切に、さりげなく見守りながら、関わることで、誰かが傍にいる安心感を持ちながら、その人らしく、笑顔で生活をして頂ける様に、日々ご利用者個々の思いに寄り添い、状態や状況に合わせて、臨機応変に個々のニーズに対応出来る様努めています。
又、敷地内に特養施設、デイサービスが隣接する環境のもとで、日常的に馴染みのある人と関わりを持ちながら、ご利用者個々が安心して過ごせる様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は様々な介護事業や介護施設を展開し地域の信頼を得ている。グループホーム通信を配布回覧して地域の理解を深めており、法人内の研修も充実しているため、スタッフの意識も高い。4ヶ所のグループホーム間の情報共有と経験から培ったノウハウを駆使して、コロナ禍の困難にも利用者目線の工夫がなされている。近隣の幼稚園との交流は休止中であるが、外出や面会制限の中で家族等と窓越しの面談を試みたり、窓からリビングホール全体が見渡せるので家族が差し入れを持参した機会などに様子を見てもらいながらの交流を行っている。また、感染予防を徹底した上でホットプレートで作るホットケーキやたこ焼き、巻き寿司を各自で食べる分を巻くことで調理に参加する利用者の活動を維持できている。敷地内の家庭菜園で育てた作物が食卓に上ることも楽しみの一つになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者本位の法人理念を基に作成したグループホーム独自の理念をホールに掲示し、ミーティング時や、折に触れて、職員間で共有、実践に努めている。	法人理念に加えてグループホームの理念も掲げている。数年前にグループホーム理念の内容をそのまま分かりやすい言葉にした。日々のミーティングで唱和を行い、自身や家族に置き換えて考える方法で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加できる地域行事が行われていない為、地域交流する機会は少ないが、職員個々も日常の挨拶はもとより、地域との交流への意識を持ち努めている。感染症の流行がない時期は、隣接するデイサービスの行事にも参加していた。	自治体の境界近くに位置することから、隣接する自治会にも加入している。スタッフが地域の溝掃除に参加し地域交流に務めている。コロナ禍で対面の付き合いが減っているが、グループホーム通信を回覧版で依頼する機会に近況等の報告をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修会等は実施していない。又、コロナ禍で運営推進会議も文書での報告が続いている中、法人内グループホーム4事業所で作成している通信を地域に回覧依頼し、グループホームや、認知症への理解を深めて頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動状況やご利用者の状況、職員の研修等を報告している。コロナ感染症により、文書報告が続いているが、市役所、包括、地域代表者や、ご家族に報告書を2ヶ月毎に配布している。	コロナ禍に開催を休止していたが、法人内の関係者のみで再開を試みた後に、場所も密にならないように広いスペースでソーシャルディスタンスに配慮できる会場を準備して、完全開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に適時の相談をさせて頂き、随時適切にご指導頂いている。	直接面談や電話で日頃から連携を図っている。利用者のことや入居に関する相談や、空き情報の問い合わせを受けている。二年に一度の実地指導でアドバイスをもらい実践に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の事業所内研修と、日々のケアの中で身体拘束となる行為及び不適切ケアについて職員間で話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠についても、出来る限り職員が同行や見守りを行い自由に出入りが出来る様努めている。	スタッフはお互いにスピーチロックを含め些細なことでも注意し合える関係性を築き、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。コロナ禍の感染予防対策のため、施錠して外部からの訪問に制限を設けているが、利用者はスタッフ同行で自由に外に出られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修で学ぶ機会を作り、又、日々の業務の中で話し合い、常に第三者の視点で見る意識を持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、活用が必要なご利用者はいませんが、今後対象者が入居された場合を想定し、機会があれば、研修等参加する様心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人やご家族の不安や疑問等を尋ねながら重要事項を説明するとともに起こりうるリスクや重度化された場合に事業所として対応可能な範囲を説明し同意を得ている。又、改定時は、都度ご家族に説明、納得の上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との信頼関係を大切に、コミュニケーションを密にとる様心掛けている。ご家族の訪問時には、ご本人や職員との会話の中で意見や要望を聞き取り、柔軟に対応が出来るように、その都度職員間で話し合い、共有、反映できる様努めている。	利用者の意向は日々の生活で把握に努め、意向を捉えるように心掛けている。年一回の懇親会はコロナで休止中であり、家族の交流が減っているため、電話を中心の聞き取りを適宜に行い、出された意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や、年2回の個人面談の機会に、職員の意見を聞き、反映する様にしている。又、日々の業務の中で気付く事や不安等の思いを個々に問いかけ、聞き出せる様心掛けている。	ミーティングとケース会議で意見を出し合っている。レクリエーションの内容を提案して反映させたり、意見や悩みを相談しやすい環境である。年2回の管理者と各職員の面談を実施し、各職員自らが目標を立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により、個々の努力や実績を評価し、希望や得意なことを活かしながら、やりがいや向上心が持てる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のオンライン研修と、法人内研修、外部研修に参加できる機会を持ち、報告書の作成とフィードバックにより、全員が周知出来る様努めている。日々の業務の中でも職員個々に合わせた育成が出来る様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の事業所と交流する機会は少ないが、法人内のグループホーム間の合同研修に参加している職員もおり、意見交換する中で、お互いにケアの見直しや、交流する機会にもなっている。又、共同での作品作りや、相互に訪問する機会が持てる様心掛け、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人の状態、状況の把握と、不安や悩み、求めている事等を聞き取り、要望を取り入れながら、安心して過ごして頂ける支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請時より、見学を兼ねて来居して頂き、事前面談で、ご家族の状況や困っている事、求めている事等を聞き取り、事業所として出来る対応を話し合い、早期に信頼関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の思いや状況を把握し、必要とされているサービスを見極め、その時必要な支援が提供出来る様、ご家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切にし、その人らしく穏やかに暮らせる様、さりげなく関わりを持ち、一緒に過ごす時間を作る様心掛けている。ご本人の得意な事や好きな事、又は、状況に合わせて、レクレーションや家事作業等に誘い掛け、一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来居時や、電話連絡時にはご本人の近況をお伝えし、毎月の様子報告書には、生活状況等と写真を載せ、ご家族が安心感を持ち、より良い関係を保って頂ける様に努めている。体調変化時等は都度電話連絡し、相談しながら対応し、共に協力しながら支援できる様心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折ではあるが、ご家族以外に親類の方や、知人が来居されるご利用者はいる。又、現在は、感染予防の為、交流を控えているが、敷地内に隣接するデイサービスや特養施設を利用していたご利用者もあり、日常的に交流を行っていた。	以前は外出や外泊で馴染みの人や場所に出かけていた。現在はコロナ禍で直接会っての交流は控えざるを得ない状況であり、スタッフの助けを借りながら年賀状を出したり、電話で会話をするなど対応策を講じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、個々の状態に合わせ、気の合うご利用者同士で過ごしたり、距離を置く時間が持てる場面作りをしている。ご利用者との関わりや一緒に過ごす時間の中で、調整役をしながら、ご利用者同士で良い関係性が持てる様介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人のケア情報やご家族の希望等、転居先との情報交換を行っている。法人内の他施設に移られた場合は日常的に状況を伺ったり、又、退居後、ご家族に会えば、近況を伺い、必要があれば、相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や言動の中でご本人の希望の把握に努めている。希望等を、あまり言葉に出さないご利用者はご家族からの情報やご本人の日々の表情や行動、態度で把握する様努めている。	入居時に本人と家族から聞き取り、センター方式の様式を用いて記入している。状況に応じてその都度家族に聞き取りの協力を得るとともに、本人の日々の様子や表情から思いや意向を汲み取り、記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前より、ご本人やご家族、担当の介護支援専門員や利用していたサービス事業所からの情報収集を極力行っている。センター方式を活用し、入居時に、ご家族に記入依頼し、生活歴等を把握する様努めている。又、入居後も折に触れ、ご本人やご家族より聞き取り、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日々の状態や状況を、職員全員が共有、周知できる様、記録している。又、1日過ごされる中で、ご利用者個々に誘い掛けを行う事により、出来る事や解る力を見落とさない様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録と、日頃の関わりの中で、ご本人が困っている事やご家族の希望を取り入れられる様、ミーティング時やケース会議時に職員間で共有、意見交換しながら反映できる様努めている。状態変化があれば、その都度見直し、又、かかりつけ医のアドバイスがあれば取り入れ、作成している。	本人と家族の意向を基に入居当初に作成した介護計画を、本人の意向と家族の意見のすり合わせを行い、毎月のケース会議でも話し合った内容も踏まえて三ヶ月で見直している。主治医にも計画の内容を共有し、モニタリングはケース会議や家族の来所時や電話で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者個別に、日々の身体的及び心理的状态等を記録し、いつでも職員全員が確認、共有できる。個別記録をもとに月1回のケース会議で、変化等の気づきを話し合いながら、情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人、ご家族の状況に応じてご家族と相談しながら、共に協力し、出来るだけ柔軟な対応が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣やお花見等の外出は、長年馴染んでこられた地域の公共施設等を利用出来る様心掛けている。感染症の流行がない時は、ご利用者個々の嗜好品の買い物も近隣のスーパーへ可能な限りご本人と共に出かけ、外出支援を行う様心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続受診して頂き、状態に合わせて、密に報告、相談を行い、早期に適切な医療が受けられる様心掛けている。他科の受診、通院の必要がある場合はご家族の協力を得ながら、ご本人やご家族の希望に応じた病院で対応している。	入居後も基本的に元の主治医を継続受診している。遠方等により受診が難しい場合は家族等の希望で近隣医療機関か協力医療機関に変更している。受診は職員の同行で行っており、家族には受診後に電話で内容を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があれば、隣接する法人内の看護師に協力を求め、相談、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族と相談しながら、入院先の医師や病院関係者に、日頃の状態や支援方法を情報提供している。感染症の流行がない時は、入院中、極力訪問し、ご家族や病院関係者と相談しながら、早期に退院できる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より、重度化した場合に事業所が対応できる最大限のケアについて、ご家族に説明している。又、状態の変化に合わせて、その都度、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、希望に応じた支援を行える様努めている。	看取りケアは実施していない旨を契約時に説明をしている。家族と十分に話し合い、重度化に伴って同法人特別養護老人ホームに移ることが可能であり希望する利用者が多い。特養に移った後も職員が会いに行くなどのフォローでスムーズに移行ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンライン研修で、緊急時や事故発生時の対応を学ぶ機会を設け、職員個々に不安を持った場合や、起こりうる可能性のある疾病等について、その都度話し合い、対応方法を再確認、周知する様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を含めた火災時の総合訓練を、ご利用者と共に行い、災害時に備えて常に「万が一、起こった場合」を考える意識を持ち、日頃より、避難経路の確保、点検を心掛けている。又、感染症がない時期は、地域と協力し合える様、避難訓練に民生委員等に参加して頂いたり、運営推進会議で議題にあげ、話し合っていた。	年2回の避難訓練は利用者も参加して実施している。通報から避難までの一連の流れを実施して夜間を想定した訓練もある。地域の消防団に参加を呼びかけているが日程が合わず実現は難しい。ランタンの準備と食品や水の備蓄を三日分確保している。災害時に必要があれば事業所への避難は可能と地域に向けて発信している。	地域からの信頼も厚く、災害時には避難場所となる可能性も鑑み、避難訓練に地域の消防団の参加を望みたい。消防団メンバーは就労との兼ね合いから日程調整は難しい状況ではあるが、双方で話し合って参加の実現を目指されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や誇り、個性を理解し、ご利用者の立場に立って、個々に合わせたさりげない言葉掛けを心掛けている。ご利用者同士の関係性にも合わせ、プライバシーやプライドに配慮し、職員が介入したり、事前にトラブルの回避が出来る様努めている。	年1回の接遇研修に全スタッフがオンラインで参加している。声掛けや会話を振り返りプライバシーの確保がなされていたかを職員間でアドバイスや注意ができる関係性がある。特に排泄に関する声掛けには利用者の身になっての言葉掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いを大切に、何気ない会話の中でも、ご利用者の思いを聞き逃さない様努め、その日したい事や入浴の希望等、誘い掛ける事により、常に自己決定できる場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や状態に配慮しながら、一日の生活を、ご本人のペースに合わせている。レク参加や家事参加を行ってくれる日もあれば、何もしたくない日等、その日その時を一人ひとりの思うペースで過ごして頂ける様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容をあまり気にされなくなったご利用者には、声掛け、誘い掛けし、必要に応じて介助しながら、個々のこだわりや好みを大切に、見守りながら、ご本人が身だしなみやおしゃれを楽しめる様さりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事やお誕生日の希望等に応じた献立や旬の食材を取り入れ、楽しみを持って頂ける様、努めている。一人ひとりの日々の体調や身体機能に合わせた対応を心掛け、行っている。又、個々の好みを把握し、食欲の低下時等にも活かしている。	日々の生活で好みを聞いて、スタッフがグループホームのキッチンで調理をしている。アレルギーの配慮や状態に応じた食べ易い形状などを考慮している。持参したり購入した好みの食器で食事を楽しんでいる。コロナ感染予防を行いつつ可能な範囲で利用者が参加できる工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録し、食事量が低下した場合は好きな物や食べ易い物を提供し、対応している。水分摂取は小まめに勧め、摂って頂ける様心掛けている。又、管理栄養士に3ヶ月毎に献立をチェックしてもらい、栄養バランスの指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けを行い、ご利用者個々の力に合わせて、誘導、見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活記録で、個々の排泄のリズムやサインを把握し、さりげなくトイレ誘導を行い、リハビリパンツやパット類の使用を減らせる様心掛けています。出来る事は、取り上げる事無く見守りながら、ご自身で行って頂いている。	排泄リズムを把握し自立に取り組んでいる。声掛けや誘導でトイレでの排泄が実現、紙制リハビリパンツ使用を布パンツと尿パットに変更してパンツ上げ下ろしが楽になり自立できた事例が複数ある。夜間のみポータブルでも日中は全てトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に原因の把握を行い、小まめな水分摂取と、繊維質の多い食材やヨーグルト等を取り入れ、出来るだけ自然排便できるよう心掛けている。又、状態に合わせて、かかりつけ医に相談し、便を柔らかくする薬や便秘を改善する薬等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、午後から夕食前までの入浴を予定しているが、希望があれば夕食後の入浴も可能。入浴拒否があるご利用者には、拒否の理由を探りながら、声掛けのタイミングや時間帯を工夫し、ご自身の意思を尊重しながら入浴して頂いている。入浴しない日は下清拭、更衣を誘い掛けている。	毎日の入浴も可能で、入浴日を決めずに本人の希望に応じて入浴している。状態や気分に合わせてシャワー浴や足浴の対応も行っている。入浴を拒否した場合も状況を観ながら声掛けを行い意向に副っている。菖蒲湯や柚子湯の季節を楽しむ企画もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は、ご利用者個々のペースに合わせ、夜間入眠出来ない場合は一緒に会話をしたり、お茶を飲んだりしながら、安心して入眠できる様配慮している。日によって、日中も、居室で休まれるご利用者もあり、都度、居室内の温度や湿度管理にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人ひとりの服薬内容を把握できるように、通院ノートへの記載と薬説明書をファイルしている。服薬時には、手渡しと服用できたかを確認している。薬の変更があった場合やご本人の状態変化がある時は、詳細に記録を取り、状況に応じてかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は参加して頂き、出来そうな事にも誘い掛けを行い、役割や楽しみを持って頂ける様心掛けている。又、生活習慣を継続出来る様に、梅干し作りや昔ながらの行事等もご利用者の経験を伺いながら、参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、現在は、近隣の散歩程度で、ドライブも行えていないが、感染症がない時は、外食やお花見、初詣等、日常的な外出支援を行っていた。ご家族との外出もあり、ご本人の希望に添った外出を行い、気分転換や楽しみを増やせるように努めている。	コロナ感染予防で外出の機会が減っているため、庭の散歩や希望者には安全な道を選んでスタッフが付き添い30分程度の散歩を個別に行っている。外出気分を味わう目的で法人内のコミュニティーサロンを利用する企画をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出が出来る時は、職員と一緒に出掛け、ご本人の希望を伺いながら商品を選んで頂いているが、現金は預からず、立替え、利用料と共に請求させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、ご家族に電話をしたり、面会が出来ない時はご家族からの電話もあり、会話を楽しまれている。又、毎年、ご本人が希望される方宛に年賀状を出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事作りの匂いや他のご利用者、職員の気配を感じながら、個々が落ち着いて過ごせる空間作りを心掛けている。一緒に洗濯たみ等の家事作業を行う事で生活感を持ち、又、季節感を感じられる様、季節行事を取り入れ、装飾や季節の花を飾ったり、日々の塗り絵等も季節に応じたものを提供している。	リビングは大きなガラス窓が多く、自然光が入る明るく温かい雰囲気である。利用者は自室に籠らずリビングで過ごしている。リビングの一角には腰を掛けられる高さの3畳ほどの畳スペースが設けられており、談話の場となったり洗濯物を畳んだり、時には上がって昼寝をする場になり、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で居たい時や、気の合うご利用者同士が、好きな場所でゆっくり過ごせるように、玄関やホールの所々に椅子やベンチ等を置き、その時々で、ご自身が居たい場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に理解と協力を求め、出来るだけ自宅からご本人の使い慣れた、馴染みの物や好みの物を居室に持ち込んでもらい、居心地良く過ごして頂ける様、配慮している。	手すり付で枕元がリモコンで上がるベッドと布団は準備されている。それぞれ自宅よりお気に入りや趣味の物を持参して、スタッフが本人の目線に合わせて写真を飾ったり、見易い位置に時計を設置するなどの配慮があり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの場所にさり気ない表示をしている。居室においても、個々の状態に合わせて、危険と思われる物は固定するなど、安心した生活が出来る様配慮し、身体的に低下等が見られた場合は、その都度、安全に行動できる様に配置換えを行っている。		